



「ワタミ株式会社 代表取締役社長・CEO」
渡邊 美樹

家庭から環境を変えていく

社会人になってから「森林」を意識したのは、屋久島に通うようになってからです。世界中を撮影しているカメラマンのテラウチマサト氏に「地球で一番美しい場所」「屋久島に行かない人生なんてしよせんそれだけの人生だ」と聞いて行って見たのが最初です。連れて行っただけの子とテラウチ氏と山を歩きました。これが僕と森との初めての出会いです。

森林など自然環境はそれ以前から意識はしていましたが、もともと地球が汚れるのは嫌でしたので。そんな意識が大きく変わりましたね、屋久島に行って。その後も屋久島の山に一人で何回も入るうちに、木々の中で「命が繋がっている」と感じました。これはもう、確信でしたね。自然を守る・守らないというよりも人間が地球の大きな営みを邪魔しない存在でいられるのか、と考え方も変化していきました。

その後ISO14001を取得する際、コンサルティング会社の方から「外食産業は環境に対する負荷が小さいのでメリットがないかもしれない。ISOを取得するためのコストを使って環境に対して直接的に使ってみては」と言われました。でも僕は、始めから、このコストをワタミグループで働いている二万人の社員・アルバイトにかけるつもりだったのです。具体的には、毎年、全社員・ア

ルバイトにISOを意識させる活動を実施します。アルバイトは年に半分入れ替わりますので、毎年新たに一万人以上に意識づけをしていることとなります。だから、ISO取得は教育的な面での効果を期待しているんだ、とお話し、コンサルティング会社の方も納得してくれました。

今、自然環境に対して意識の低い人は多いと思います。そんな意識を変えるのは、行動と習慣です。意識しやすく身近な活動に、ゴミの分別があります。ワタミグループでは店舗がどんなに忙しくても、七分別を徹底しています。するとその行動が体に染みつき、家でも分別するようになるのです。一つのゴミ箱にボンツと捨てず、「コレはどこに捨てたらいいのかな」と考えるようになる。その分別の習慣を毎年一万人以上のアルバイトに教えていく、そういうところから自然環境が変わっていくんだと思っています。

プロフィール

渡邊 美樹(わたなべ みき)

1984年の会社設立より飲食店を全国に展開し、2000年3月に東証1部上場を果たす。2005年度に「外食の会社」から、「外食もやっている会社」に転換するため、社名を「ワタミ」へと変更した。現在では、外食・介護・農業・環境・教育事業にわたって幅広く事業を展開している。

Miki Watanabe